

FD活動事例:教員相互の授業参観とその一分析

— 参観した教員から提出された授業参観記録の質的分析 —

吉田文子 杉田由仁 田淵和子 平田良江 依田純子 小林美雪 流石ゆり子
(山梨県立大学看護学部)

I. はじめに

本学看護学部FD委員会(以下FD委員会)では20年度から、FD企画の1つとしてよりよい授業づくりを推進するねらいで授業参観を実施している。平成21年度からはそれまでの、「学生による授業評価の満足度」が高い授業を公開の対象としてFD委員会が設定した「公開授業」方式を、教員自らが科目担当者に授業参観の交渉を行い、相互に授業を参観しあう「授業公開」方式に変更した。理由は、「授業公開」方式であれば、実習指導等多忙な教員が自己のスケジュールに合わせてフレキシブルに授業参観を体験できるのではないかと考えたからである。本発表では、こうして実施された授業参観後に提出された「授業参観記録」の自由記述の特徴を検討する。

II. 方法

1. 授業参観の概要

目的: 教員相互の授業参観を通して、具体的な授業の進め方や指導技術について学び、自己の授業環境で活かすことのできる指導方法を模索することにより、よりよい授業づくりを推進する。

ルール:

- ① 期間中、学部内の全授業は原則的に公開とし、全教員は自分自身のよりよい授業づくりを推進することを目的として、授業参観を1回以上行う。
- ② 授業参観は、事前に科目担当者に了解を得て、了解があった授業日に参加する。
- ③ 授業参観から学んだこと等については、定型の「授業参観記録用紙」に記入し、参観日より概ね1週間以内に随時、FD委員会BOXへ提出する。

実施期間: 平成21年10月1日～平成22年1月22日

2. 分析方法

授業参観実施後に提出を求める「授業参観記録」の<授業参観から学んだこと>、<授業参観に対する疑問点、改善点>に書かれた自由記述をカテゴリ化する。

III. 結果と考察

1. 授業参観記録の回収状況

- 1) 参観の対象となった授業のサイズは、必修科目だけでなく選択科目にもおよび、クラスサイズは、100人の大サイズからゼミ形式が可能な小サイズまで13科目にわたっていた。これらのさまざまなタイプの授業参観における学びは、【準備・導入】、【展開方法】、【学生への関わり方】、や【教材の工夫】など、授業運営の全般に及んでいた。
- 2) 参観者数は、「授業参観記録」の提出をもって把握。記録回収は37枚(全教員の74%に該当)で、昨年度の授業参観記録回収数13枚(26%)より大幅増であった。職位の

内訳は、教授 7 人、准教授 11 人、講師 9 人、助教 8 人、助手 2 人であった。

2. 授業参観から学んだこと

【授業の準備・導入】 【授業の展開方法】 【教材の内容】 【教材の工夫】 【学生への関わり】 【課題設定・授業の評価】 の 6 つのカテゴリが見出された（表 1）。

【準備・導入】では、[前回のふりかえりを行うこと]、[学習内容を提示すること]などがあげられたが、教員と学生が「授業」を協働注視することを可能にさせる機会となり、学生の参加型学習につながりやすいと考えられる。【授業の展開方法】では、[講義の時間配分やポイント]、[聞き取りやすい話し方]、[大切なことを繰り返し説明すること]の実際を参観し、学生の反応をリアルタイムに分析し学生の学びを効率的に促進させるという指導原理への理解をより深めることができたのではないだろうか。【学生への関わり方】では、授業の導入・展開場面を「学習者を中心に展開する授業構成」という別の視点からとらえることにより、[学生の自発性を促す]、[学生の反応を常に意識]、[学生の質問時のストローク]などが、学習への動機づけを強化しやすく、主体的な学習を促進させる支援ともなるという学びに結びついたのではないだろうか。

平成 21 年前期の学生による授業評価（看護学部）では評価得点が思わしくなかった「授業内容の要点がわかりやすい」「難しい内容・テーマについての具体的でわかりやすい説明」等の項目と関連性のある【授業の展開方法】 【学生への関わり】に分類される記述は、量的に他のカテゴリに比してそれぞれ 25%、24%と群を抜いて多かった。授業づくり・授業改善のポイントとして注目度が高かったのではないかと考えられる。

抽出されたカテゴリ

（表 1）

| | |
|----------------|--|
| 授業の準備・導入 (18%) | ・ 前回の講義のふりかえり、学習内容の提示から講義を受ける準備 ・ 出欠席の確認の仕方 |
| 授業の展開方法 (25%) | ・ 講義の時間配分、講義のポイントの確認 ・ 聞き取りやすい話し方 |
| 教材の内容 (5%) | ・ それぞれの専門性に関わる場所なので、内容についての意見は聞かれないが、内容を精選し学生に伝えたいことの焦点化がされている |
| 教材の工夫(19%) | ・ 教材の選択 (DVD、OHP、VTR、実際の器具等) 適切に教材を選択していること ・ テキストの選択・板書について ・ 事例の精選 ・ レジюме、資料の作り方 |
| 学生への関わり (24%) | ・ 学生の参加を促すための教員の工夫、主体性を伸ばす教員の関わり |
| 課題設定・授業の評価(9%) | ・ 自己学習の提示方法、学生の意欲を引き出す課題設定 |

3. 授業参観に対する疑問点、改善点

【本企画に対する疑問点】 【企画に対する改善点】 【授業に対する疑問点】 【授業に対する改善点】 【その他】 の 5 つのカテゴリが見出された。

IV. まとめ

今回の授業参観記録によれば【授業の展開方法】 【学生への関わり】での学びが多く、学生による授業評価低得点項目と一致しており、今後の授業づくりへの改善策も期待される。また、本学部では「授業公開方式」の方が参観率が高まることが明らかになった。